

2019年第2回おおぶ文化交流の杜運営協議会

日 時 : 2019年11月21日(木) 14:00~16:00

場 所 : おおぶ文化交流の杜 文化サポートー室

出席者 : 委員6名／大府市(文化振興課田中課長)事務局(JTBコミュニケーションデザイン:以下JCD総合館長野村・文化部門マネージャー森・エリアマネージャー江口図書館流通センター:以下TRC図書館館長上野・図書館部門マネージャー小倉)

発 言 者	議 事 錄
-------	-------

事務局 本日はお忙しい中お集まり頂き、ありがとうございます。

2019年度第2回おおぶ文化交流の杜、運営協議会を始めさせていただきます。

司 会 アローブも開館6年目になりました。課題を乗り越え順調に運営していると聞いております。本日は文化部門・図書館部門の上半期報告と、来年度の事業計画について議論して頂きたいと思っております。忌憚のないご意見をお願いします。本日は1名欠席ですが、本協議会の規約に則り委員過半数が出席の為会議成立となります。

～2019年度上半期文化交流部門より説明～

司 会 ご意見ご質問などあれば伺いたい。

B 委 員 すごく充実したアローブを運営していると実感した。スティールパン講座の稼働率が60%ということだが、参加者が一人とか二人とか非常に少人数である。なぜこのような状況で講座を開講しているのか。

J C D 前年は3タームに分けて複数回の講座として実施できていたが、今年度は講師が多忙で2回しか実施できないということが前提にあった為、前年に参加した入門3名、経験者2名のみを対象にしたのでこのような状況になった。

B 委 員 せっかく習ったので、成果発表の機会があると良いと思っているがどうか。

J C D 昨年はカルチャーフェスティバルに参加してもらっていたが、今年度については発表会の機会はない。

B 委 員 一人か二人で講座を実施することに、経費の面からも疑問が残ったので質問した。学んだ事をそのままにせず発表の機会を設ける事を意識して欲しい。中日新聞に東海市芸術劇場の多目的ホールで実施された、読み聞かせ・楽器・歌など文化団体のイベントについて掲載されていた。とても良い取り組みだと思った。

司 会 学んだことを発表するのは大切なことで、ぜひ取り組んで欲しい。

またアローブシネマセレクト「一陽來復」は、定員が200名で設定されているが、理由を教えて欲しい。

J C D 過去の経験値を元に目標値を決めて実施している。

司 会 採算ベースではなく、実績値の見込みから設定しているということか。

J C D そうだ。震災をテーマにしたドキュメンタリー映画ということもあり、過去の状況から見込みを立てている。

D 委 員 図書館部門は報告書に各事業のアンケート結果が掲載されているが、文化部門は掲載されていない。なぜか。

J C D 大府市を含めた別途会議の中でアンケート結果は共有している。運営協議会報告書にも今後は反映するようにしたい。

D 委員 是非お願いしたい。また報告書のフォーマットを統一して欲しい。設問は全て同じにし、他の事業と比較することで、特徴や課題が分かってくる。仮にアンケートの多数であっても、それは認知の問題で企画内容の課題ではないといったような分析もできると思う。アンケートは自由記述だけでなく、満足度などのパーセンテージも知りたい。

J C D 承知した。

D 委員 おおぶ文化交流の杜の中期計画について質問したい。基本方針が4点掲げられているが、「市民地域との共同による運営」にあたるのは、今期では「愛三文化会館でのポスター展」なのかなと思っている。それ以外はどのような状況か。

J C D 「一陽来復」を「3.11を忘れない実行委員会」と共同で実施したり、新たに始めた「おもてなしプロジェクト」も同様の位置づけになるかと思っている。

C 委員 今期はこれまでの5年間を土台にして、ワンランクアップした運営ができていると感じている。「おおぶおもてなしプロジェクト」・チケット販売・広報など、今までの反省をもとにより良くしようとする姿勢が見える点も評価できる。「もりもり冒険隊」については実際に楽しませてもらったが、ボランティアや実行委員会の連携を取るのは難しい。全員が同じ方向を見て進められれば良いが、考え方とやる気やモチベーションを同じレベルに保つのは厳しい。これは図書館まつりでも同じことだ。今後も上手にコミュニケーションが取れたらいいなと思っている。

司 会 新しくなった季刊誌「杜の音」について意見を聞きたい。

E 委員 イメージが大きく変わって非常に良かったと思っている。

司 会 デザイナーに依頼もしたようだ。

B 委員 1枚の紙ではあるが、折りたたむと冊子風になるデザインは素晴らしい。

C 委員 手に取りやすい大きさも良い。折りたたんでも広げても素敵だから、さすがデザイナーだと思った。

J C D デザイナーの助けを借りたことは事実だが、企画はスタッフからの発案だ。駅や市役所などはA4サイズが良いが、持ち帰っていただくのであればコンパクトにしたいという事もあって、今の形が出来上がった。今まで努力してきた賜物だと感じている。

司 会 どれくらいのタイミングで発行されるのか。

J C D 季刊誌として12月1日に次号を発行予定だ。来年度からは年に4回を予定している。

D 委員 発行部数と配布状況を教えて欲しい。

J C D 部数は10,000部。今回は市内小学校に5,800部、商業施設や医療機関などにも設置をお願いし9,000部ははけている状況だ。

B 委員 デザイナーにも依頼し、こういったものに経費がかけられるのは羨ましい。

J C D 実際には予算化していないので、他の部分を絞ってここに充てたような状況だ。

B 委員 レイアウトも良いし、アロープのことだけでなくいろいろな情報が盛り込んであるのが素晴らしい。

J C D レイアウトはデザイナーに依頼しているが、経費削減の意味もあり内容などの検討は全て

スタッフで行っている。

E 委員 ドリンク券も良かった。もしかしたら使うかもと思い保管する方もいるだろうし、それによって見返す方もいるだろう。

J C D カフェからも実際に利用があったと報告もあった。

E 委員 「NAOTO アコースティックコンサート」では子ども料金の設定があったようだ。その点を NAOTO さん自身が「とても良い」と感想を持たれたことを知った。本当に同感である。私自身も子どもがいるが、子ども料金の設定があると子どもを歓迎してくれていることが分かり、安心して参加できる。アローブにはホールに親子室のようなスペースもあるので、例えば障がいがあり声を上げてしまうような方でも、親子室で楽しめるといった案内があると良い。迷惑にならないだろうかと参加を迷うような方達に、安心感を与えられる材料が提供されていると嬉しいと思う。

J C D ホール後方の特別鑑賞室は、お子さんがぐずってしまった時には案内しているが、障がいがある方についてはアプローチできていない。

E 委員 難しいとは思うが、私がイベントを企画する際にも障がいを持っている方をお誘いすることもある。そういう機会は多くないので、本当に喜んでいただけている。ただ、一般の方と同じように参加したいという方もいれば、人目に付きたくないという方もいる。そういう場合でも、特別鑑賞室は非常に良いのではないか。

司 会 特別鑑賞室の利用状況はどうか。

J C D お子さんが参加されるような公演は、騒いでしまっても問題ないものが多いので、わざわざ促していない。

司 会 上手く使うことを考えると良い。もちろん参加者が選べるようにしないといけない。いきなり案内してしまうのも失礼だろう。選択肢があることをうまく PR できると、催事の幅も広がるだろう。困った時に使う部屋ではなく、戦略的に使っていけるともっと良い。

E 委員 チラシに毎回掲載するもの大変だと思うので、「杜の音」を上手く活用して周知したらどうか。

司 会 「特別鑑賞室の上手な使い方」といったような記事にするとか。

J C D 直ぐにでも取り組んでいけそうな内容だと思うので、検討していきたい。

C 委員 車椅子席はあるのか。

J C D 車椅子席は設定して販売している。最後まで希望がなかった場合は一般席として販売しているような状況だ。

C 委員 そういった取り組みも一緒にPRすると良いと思う。

E 委員 「杜の音」を上手く活用してPRしてもらえば、障がい者施設にも周知したいと思う。

司 会 おもてなしプロジェクト「みどりや」とのコラボは非常に面白い取り組みだと思った。初回の NAOTO のコンサートでは完売したとあったが、2 回目は完売にはならなかったようだ。他の店舗とのコラボは考えていないのか。

J C D 人員の問題で断られてしまうケースもある。他県の方への PR が目的なので、大府市で知名度のある店舗を選んで声をかけている。

司 会 ハードルが高い部分もあるのか。

- J C D 来年度コンサートでは別の店舗に声かけをしているが、店舗サイドの人員の問題が一番のハードルになっている。
- 司 会 非常に良い取り組みだと思うので、継続して色々な業種に拡大していくように取り組んで欲しい。
- J C D 継続して努力していく。
- 司 会 愛三文化会館で5周年の掲示を実施したことだが、非来館者用のPRはとても良いと思うが、市役所など他の公共施設でも実施したらどうか。内容はもう少しコンパクトでも良い。キャラバンで回りやすいサイズにして広くPRしたら良いと思う。
- E 委 員 産業文化まつりへの出展を考えたらどうか。小さなお子さんから高齢の方まで来場があるので、多くの方に見てもらえる。
- D 委 員 アローブで愛三文化会館の展示をしてはどうか。
- B 委 員 とても良いと思う。愛三文化会館は目的がないと来館しない場所だ。アローブは座って過ごすことができるフリースペースがあり、目的がなくても訪れる方は多い。両館が連携して実施して欲しい。

～2019年度上半期図書館部門より説明～

- 司 会 ご意見ご質問などあれば伺いたい。
- C 委 員 図書館サポーターとして絵本講座に関わっているが、もっと前から知りたかった・過去のイベントを再度実施して欲しいといった声がある。継続して参加してくださる方がいるのは有難いが、新しい参加者は毎回5名程度で、新しい方を増やす事は難しいと感じている。継続すればするほど難しい課題だと思っている。
- E 委 員 妖怪先生の講座には開館前から並んだ。文化部門が企画したピアノ解体ショーの時も同じだが、申し込みを希望している方がもめていることが多いようだ。原因は事前に電話で確認した時の答えと、当日の対応が違っていることだ。ぜひ改善して欲しい。大府市民としては市民の参加を優先して欲しいという思いもある。申込の条件を明確にして欲しい。
- C 委 員 夏休みの子供向けの体験講座は、開館3年目ぐらいまでは先着順だったが、混乱が多いので抽選にした年もあったように記憶している。
- T R C 調べ学習講座については開館前から長い行列ができてしまい、近隣に迷惑がかかるような状況だったので、現在も抽選で対応している。先程の妖怪先生は子育て講座なので、先着順での対応だった。
- 司 会 行列ができるような魅力的なコンテンツが準備できるのはすごいことだ。電話対応と当日対応は同じになるようにするべきだ。
- E 委 員 ピアノ解体ショーの時は、学習室を希望する人や図書館に行きたい人など、様々な目的で開館前から多くの人が集まっていたが、明確な看板がないため非常に混乱していた。順番を守る為にも看板は設置して欲しい。
- 司 会 良い指摘だ。誰が来ても公平になるようにして欲しい。
- F 委 員 こういったイベントの告知はおおぶ広報に掲載されると思う。自身が公民館の講座をする機会もあるが申し込みに関しての苦情は多い。対策としてネット申し込みの仕組みを作る

- ことはできないか。
- B 委員 ネットだけということか。せめて申し込みはネットだけでなく色々な方法があると良い。
- F 委員 アローブのチケット販売でも、ネットや窓口など方法が違うと買えたり買えなかつたり結果が違っているようだ。アローブは学習室だけでも行列を作っている。並ばなくとも公平に対応できる仕組みを考えて欲しい。
- 司 会 公益的な商品の販売ルールは難しい。大府市としてはどのように考えているか。
- 大府市 並んでまで欲しいと考える方は熱量の多い方だ。そういった方々が手に入れられなくなってしまうのは非常に問題だ。行列を作ってもらって受け付けるという、誰から見ても公平な方法を無くしてしまうことはできないと思っている。ネットだと繋がらないうちに受付終了になることもあるだろう。しかし蓋を開けてみたら一番前が空いていた、などという事が起きる可能性もある。並んで苦労した方が報われる仕組みは残しておきたい。
- F 委員 子どもだけで参加する企画はとても良いと思う。日頃の講座で体験することだが、一緒に参加した母親がスマートフォンに夢中で無関心だったり、逆に過保護過ぎてしまったり。良い意味で親離れ子離れできるような機会が増えると有難い。
- C 委員 申し込みの段階から告知することが大切だろう。
- F 委員 東海芸術劇場で実施された、精神にハンディキャップのある方向けのバレエ公演を見に行った。その時には、場内を暗くし過ぎなかつたりしてハンディキャップのある方に配慮した対応をしていた。バレエの内容も簡潔に分かりやすくアレンジしてあった。通常のバレエ公演と比べたら疑問を感じる部分も多いが、そういった公演へのニーズはあり満席になっていた。アローブでも同じような取り組みを期待したい。
- 大府市 市の企画である「子ども落語教室」は2時間の企画であるが、親御さんには公開していない。親御さんに自分の時間を過ごして欲しいという意味と、その時間は師匠が親・師匠なのだという認識を持っていただきたいという二つの意味がある。それに対して「子ども歌舞伎」の方は、子どもだけでは筋書きを理解できない部分もあるので、親御さんにも理解していただきたいという意味もあり、一緒に参加してもらっている。もちろん強制ではないので、子どもだけで参加しているケースもある。
- 司 会 先生や内容によって異なる部分もあるだろうが、事前の告知が非常に大切だろう。
- D 委員 報告書についてお話したい。先週開催された文化懇話会でも議論されたが、報告書のグラフやデータを見やすくして欲しい。例えば図書館のアンケート結果には、円グラフと数字データ表があるが、円グラフに分かりやすく落とし込んであれば、数字のデータ表は不要である。①設問②円グラフ③それに対する分析。といった具合に整理するのが一般的だと思われるし、見る方も分かりやすく問題点を分析しやすい。また図書館の報告書には色々なパターンがあるようだが、フォーマットを作成し統一することを検討して欲しい。次に図書館子どもまつりについてだが、こもれびホールの利用を検討して欲しい。特にオープニングについては音響のボリュームの問題で、総合管理室の業務に支障が出ていると聞いている。こもれびホールを利用するには費用面からもハードルが高いかもしれないが、図書館サポーターでホールを利用したことがある方は少ないとと思うので、学べるチャンスなのではないかと思っている。事業計画にもJCDは、ホールやスタジオの利用支援を実施

していると記載されている。図書館と文化部門が連携するとても良い機会だと思う。オープニングからお山の杉の子さんなど、発表が主な内容のサポーターはホールで実施すれば設営の手間も省け非常に良いのではないか。ギャラリーの音楽イベントもホールを使えるようにしたら良いと思う。サポーターがこもれびホールを気軽に使えるようにしたら、ホールの稼働率にも貢献できる。

司 会 全ての委員が図書館子どもまつりの現状を把握しているわけではない。図書館から現状の説明を含め意見を伺いたい。

T R C 図書館子どもまつりはボランティアさんが主導となって企画してもらっている。今の話は図書館が決められる問題ではない。ボランティアさんのご意見を伺わないといけない。

司 会 現状のオープニングはどこで実施しているのか。

J C D ふれあいの路で実施し、音が問題となっている。

C 委 員 オープニングや音楽関連の企画については、費用面を考えなければホールで実施することは可能だ。ただそういった企画をされている方は基本「おはなし会」を実施し、話し手と子どもたちの距離感を大切にされている。ホールでの実施は難しいという印象を受ける。また図書館子どもまつりは、色々なグループの話し合いの中で生まれているイベントだ。意見を聞いてみないと分からない。

D 委 員 文化部門でも演者が客席に入っていたり、舞台にお客さんが上がったりなど色々な形で事業を実施している。ノウハウを共有して検討することもできるのではないか。

司 会 図書館子どもまつりのオープニングはホールを利用し、その後「育み隊プレゼンツ」として文化部門がコラボするのも良いのではないか。日常の業務に支障があるということならば、その部分は解決の為のアイデアを出し合って欲しい。協議会資料については、文化部門と図書館部門で形式が違うが、文化部門のように前年より多くなっている部分は太字にするといった形式のルールと、文字サイズ・フォントは揃えると良いのではないか。アンケート結果についても、JCD と TRC で協議して内容を揃え、事業によって特質すべき点のみ絞って掲載するのが良いかと思う。とても大変な作業かと思うが、資料を見せられる側からするとそれが礼儀なのではないかと思う。報告時間についても言えることだ。端的に説明していただけないと協議の時間が短くなってしまう。なるべくそういった事を意識してもらえるともっと良くなる。一生懸命まとめていただいているのは伝わっている。

大 府 市 データとしては今まで通りしっかりと取っていただきたい。そもそもサンプル数が 100 を切っているわけだから、本来ならば百分率で示すべきものではないかもしれない。サンプル数が 50 のものと 100 のものを一緒に分析するようなことがないようにして欲しい。例えば 2 人しか参加者がいないのに 50% だというような分析だ。

司 会 この運営協議会は非常に良い場だと思っているので、資料についてもブラッシュアップしていくことを期待している。

E 委 員 「幻の大府飛行場と産業発展の土壤」の報告書から、広報に力を入れているのが分かった。興味がありそうな人が集まるところに、広く告知を行っているのが素晴らしい。

B 委 員 愛三文化会館で実施される映画祭で、飛行場をテーマにした映画が発表される。今回で 3 回目の映画祭になるが集客に苦労している。年配の方だけでなく、映画を媒体として大府

- の歴史を学ぶこともできる貴重な機会だ。情報発信をどこにするかというのがカギになる。
- 大府市 点字教室について図書館運営委員会でも話題になったが、「お遊びで実施するな」という意見があることも確かだ。しかし視覚障がい者の方との関係性ができたことも事実だ。否定的な意見があることを分かった上で、図書館が橋渡しの役割を担ってくれていることは有難い。
- B委員 自身の姉が鶴舞図書館を拠点として点字の講習会を実施しているが、長い期間継続して参加される方も多いようだ。継続することは非常に意味があるので、今後も取り組んでいただきたい。
- 司会 大府は点訳ボランティアの団体があるのか。
- 大府市 存在している。施設へのアドバイスなどもお願いしている。英語のセサミストリートでも、指文字のコーナーがあるように、子どものころから手話などに触れる機会があるのも良いと感じている。

～2020年運営計画 文化部門・図書館部門より説明及び総括～

- 司会 ご意見ご質問があれば伺いたい。
- D委員 図書館のクイックレファレンスについて教えて欲しい。
- T R C その場ですぐに質問に対しての回答ができるということだ。
- 司会 クイックレファレンスの件数をカウントするのは大変ではないのか。
- T R C 図書館カウンターに集計用紙を準備している。業務を行いながらカウントするのは難しい部分もあり、正確性に欠けると図書館運営委員会でも指摘を受けた。現在はできるだけ正確な数字を残せるように対策をしている。
- D委員 図書館の取り組みとしてイベントを増やす案が出ているが、図書館の役割としては独自資料の適切な管理ということが非常に重要なのではないかと思っている。そこを目標値として見える化していただけると嬉しい。
- 司会 数値目標として掲げるのか。
- D委員 数値も大切だが、郷土の重要な資料の保管方法なども知りたい。指定管理ではその部分は重要な課題だと感じている。
- 大府市 ご指摘いただいた事は図書館運営委員会の場でチェックしている。独自資料は何かとか、独自資料を本気で集める気はあるかという問題については、数値だけでは測ることができない。
- D委員 大府市から指示が出ていると会議資料にはあるが、その部分もどういった指示が出ているのか知りたい。
- 大府市 指示を待っているようではだめだと思っている。図書館の判断で現状は適切に運用できていると感じている。独自資料にもレベルがあり、昔作られていたお弁当の包み紙まで集める必要があると課している自治体もあるが、大府市ではそこまでは求めていない。また必要な資料だとしても、東京の古本屋まで調達に行って欲しいというレベルも課していない。数字だけでは指標化しづらい問題であると感じている。そういう理由から現状

では、図書館運営委員会で定期的に取り組みを共有している。また先程話のあった「レファレンス」や「クイックレファレンス」とは何かといったことも、一緒に学んでいるような段階だ。

D 委員 状況は良く分かった。貸出点数を稼ぐために一般流通しているような人気の本を購入し、独自資料を捨ててしまうような事が起きないようにして欲しい。

大府市 大府市では単純に貸出点数を増やすことを課していない。なぜかと言えば、増やす方法は図書館学を学んでいればいくらでも分かることだ。でもそれをやってもらっては困ると思っているので、導入する冊数なども適正にするよう指示している。そういったリテラシーを持った人間が関わっている間は良いが、いなくなってしまったら恐らく人気の本を増やすような流れになってくるだろう。実際そういった流れになった自治体もたくさんある。独自資料はと問われるケースに備え、形だけの数字を羅列するようになって欲しくない。不要になれば廃棄することを前提に、旅行ガイドブックや子どもの本、例えば「かいげつゾロリ」などを増やせば貸出点数が伸びることは分かっている。でもそうではない取り組みを市とも連携して図書館にはやってもらっている。その部分を利用者にも理解してもらわないといけないので、苦情があった場合でも大府市として対応しているような状況だ。今後もこのような体制を続けていくには、こういった場で市民の方に声を上げていただくことも重要だ。

C 委員 リクエスト本をどれだけ導入するかは難しい問題だ。リクエストは多いがたくさん購入してしまうと、10年後に問題が発生する可能性はある。

大府市 大量に出版される中、何が大府の図書館にとって必要なのはスタッフが選書している。

D 委員 そういった取り組みをもっと市民にPRして欲しい。

T R C 選書についても考えながら実施している。

司 会 数値目標で測れる部分と、質的な問題で測れない部分があるが、文化部門も図書部門も共通して言えることは、運営の根幹を担うのは数字では測れない部分だという事だ。中期計画に文言として書いているとしても、それは綺麗事でしかないので、「ここは守っていこう」「数字に踊らされないようにしよう」など、職員の異動があっても大切なものはしっかりと継承していく様にすることが大切だ。今日のような場があることも良いハザードになっている。忌憚のない意見を交わすのは大事なことだ。中期計画にはたくさんの取り組みを羅列しがちだが、アローブならではの取り組みがクローズアップされると良いと思う。文化部門で言えば、「市民を育てる」ということに傾注するなど、メリハリを付けた運営を期待する。そういったことがないと、「全部やります」といった数字のチェック表になってしまっただけだ。成績をつけるだけの仕組みはロクなものにならないだろう。

大府市 日頃の取り組みに感謝しているが、職員の異動もありリテラシーのようなものをどうやって継承していくのかというのが課題だ。今、社会教育全体の力が問われている。本来ならばホール・民俗資料館・図書館などが協力しながら取り組んでいくべきところが、現在の大府市のように組織がバラバラになってしまい横の連携が取り難くなっている。円滑にするためにはどうしたらよいのか、今後の重要な課題もある。

C 委員 今年の秋は警報の発令が多かった。前回の発令時は臨時休館になったとも聞いている。警

報発令時のアローブの対応はどうなっているのか教えて欲しい。

大府市 警報が発令されたらただちに閉館するというルールはない。なぜかというとホールのイベントを予定している場合もあるし、実際どの程度の影響があるかも分からぬからだ。現在は、館内にいる利用者を警報を理由に追い出すこともしていないし、逆に警報が出ていなくても状況に応じて帰宅を促している。ただ最近の傾向を考えると、ある程度のアルコリズム（手順）を明確にするべきではないかということを議論している。これまで行政は警報が発令されたら即閉館といった対応をしてきたが、そこまではしなくともある程度は方法で明確なアルコリズムを決める必要があると感じている。今年は3回台風が来たこともあり、丁度その議論に入ったところだ。

C委員 図書館や学習室があると子どもの利用者も多いので、慎重に対応する必要があるだろう。開館していると子どもが来館してしまうという問題もある。

大府市 前回は2時に閉館を決めた。新たに来館することはできないが、中にいる方も無理に追い出すことはしないという対応をした。

司会 これまでの議論で補足などがあったらお願ひしたい。

JCD 先程イベントの申し込みについて話が出たので補足したい。文化部門でもネットだけで申し込みを受け付けたケースがあったが。顔が見えないコミュニケーションなので、申し込みだけで支払いをされない人が出てしまい混乱した。一つの経験値として共有させていただく。

TRC ネット予約については図書館でも意見は出た。ただ公平ではないという意見もあり導入には至らなかった。

JCD 自分はJCD本社サイドからアローブの運営をサポートする立場にある。文化部門では事業担当2名の人事異動もあった。リテラシーをどうやって引き継ぐかという話が先程も出たが、本社と現場が連携してサポートするような動きを実施している。教育の機会も増やし、アローブのレベルを向上するべく努力している。また毎月運営各社（JCD・TRC・MELTEC）でコミュニケーションを取る機会を設けている。田中課長のお陰で有意義な時間を共有できている。3社は公共施設を運営させていただいているが、民間企業である。そういう部分も田中課長が上手にバランスを取ってくださり、非常に良い関係を築けていると思っている。そんな現状をここにいる皆さんにも共有させていただきたい。

司会 本日の協議事項は全て終了した。非常に有意義な対話の時間が取れたと思う。前回ここで意見として出たことが「杜の音」のような形になっている。来館者はもちろんのこと、スタッフやアローブに関わってくださる方全てが財産であり、鍵だと思っている。全ての方のやる気が出るようなアローブになることを期待している。

事務局 皆様本日はありがとうございました。ご指摘いただいた部分を少しでも改善してまいりたい。

次回運営協議会、開催予定は2020年5月21日（木）の予定。

今後も皆様に満足して頂けるように、スタッフ一同努力してきたいと考えている。

以上で協議事項はすべて終了した。閉会。